

平成28年度地域包括支援センター事業評価
⑧ 小金地域包括支援センター

評価指標の定義

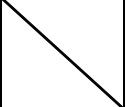
- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

松戸市
平成29年7月

1. 組織／運営体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 「事業計画」に委託契約仕様書の内容は網羅されている／いない	いる			
	イ. 「事業計画」を法人として決定している／いない	いる			
	ウ. 担当圏域やセンターが抱える課題を把握した上で、平成28年度の事業実施に当たっての重点業務を決めている／いない	いる			
	エ. ウが「いる」の場合、重点業務の具体的内容【自由記入】	地域個別ケア会議において、管轄内の居宅介護支援事業所のケアマネの参加の機会を満遍なく確保するよう努める。地域包括ケア推進会議においては、子ども関係、障害関係機関など高齢者の関係機関以外とも連携し、包括的な支援ネットワークの構築を目指す。			
	オ. 「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善の具体的な実施方法【自由記入】	前年度の事業評価から改善項目を抽出し、改善計画を立てる。事業計画に対する事業の実施状況について3ヶ月に1回包括内会議を開催し、状況を確認する。			
	カ. その他【任意・自由記入】	包括内会議において、事業計画を元に年間スケジュールを立て、事業ごとに市役所に事前連絡及び事後報告を行う。年度末には全体を通じて事業に対する実施後の評価を行ない、次年度の計画に反映する。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②担当する圏域における高齢者人口及び世帯の把握を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 担当する圏域の65歳以上の高齢者人口【時点・世帯数・人数を記入】	平成29年4月1日現在 (10,620)人			
	イ. 担当する圏域の65歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の65歳以上の高齢者数【世帯数・時点・世帯数・人数を記入】	平成29年4月1日現在 独居世帯数(2,635)世帯 65歳以上の高齢者世帯の高齢者数(6,819)人			
	ウ. 担当する圏域の75歳以上の高齢者人口【時点・世帯数・人数を記入】	平成29年4月1日現在 (4,893)人			

工. 担当する圏域の75歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の75歳以上の高齢者数【世帯数・時点・世帯数・人数を記入】	平成29年4月1日現在 独居世帯数(1,469)世帯 75歳以上の高齢者世帯の高齢者数(3,385)人		
---	--	---	--

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		4	4		体操教室、介護予防教室、認知症予防教室におけるアンケートの実施により、栄養や歩くことについての質問が多く、管理栄養士の講話や歯科医師による口腔機能の維持などの講話を教室時に実施している。
評価の根拠	ア. 実施しているニーズ把握の方法【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・体操教室、介護予防教室、認知症予防教室でアンケートを実施する。 ・地域住民と取り組む介護予防に関する活動の中で、意見交換を行う。 ・高齢者支援連絡会定例会に参加し、高齢者支援連絡員の活動報告からニーズを把握する。 ・個別相談対応からニーズ分析を行う。 ・自治会、老人会などの集いに出席し聞き取りを行う。 ・民生委員児童委員連絡協議会に参加し、高齢者支援の実態を把握する。 ・医療機関の医療相談員と連携し、地域住民の医療ニーズの把握を行う。 	/		
	イ. ニーズを基に実行した取組の具体例【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防教室参加者が、その後も継続的に介護予防に取り組めるよう、小金包括が事務局を務める「小金げんき友の会」の活動の参加につなげる。(活動例:ウォークラリー企画・運営、認知症高齢者声かけ訓練、認知症サポーター養成講座における寸劇)・個別相談で把握した消費者被害に対して、詐欺被害防止について地域住民に周知するため、警察署の協力のもと体操教室参加者に向け講座を開催する。 ・介護保険制度及び、介護予防活動について等の出張講座を行う。 ・ニーズに応じて、地域個別ケア会議及び、地域包括ケア推進会議を開催する。 			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
④個人情報保護の徹底を行っているか。		4	4	<p>・月に1度個人ファイルの定期点検、週に1度個人情報持ち出しノートの定期点検を実施している。</p> <p>・パスワードは年1回及び職員入職時に必ず全員変更している。</p>	<p>関係者以外のカナミックへの進入を防ぐため、パソコンを立ち上げる際のパスワードを年に1回と職員の入れ替えがあった際にセンター長が変更している。</p>
評価の根拠	ア. 個人情報保護マニュアルを整備し、職員全員が所持している／いない	いる			
	イ. 個人情報保護責任者を設けている／いない	いる			
	ウ. 個人情報の管理のためにしている具体的な方法 安全な保管場所(鍵・パスワード付)や管理の方法など【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護マニュアルを作成し、年1回の全職員に向けた研修と年2回セルフチェックを実施する。 ・個人情報は鍵付きのキャビネットに保管し原則持ち出しは禁止する。 やむを得ず持ち出す場合は個人情報持ち出しノートに記入の上、複数名で確認する。 ・パソコンは全て、個人パスワードでログイン制限する。 			
	エ. 個人情報の取得・開示についてのチェック項目を設け、案件ごとに確認している／いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度個人ファイルの定期点検、週に1度個人情報持ち出しノートの定期点検を行う。 ・パスワードは年1回及び職員入職時に必ず全員変更する。 			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項															
⑤利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。		3	3	<p>・薬局や医療機関に独自に作成した包括のチラシを設置してもらっている。</p> <p>・薬局や歯科医院の連携が取れているところに配布し、無くなると取りに来てくれる薬局もあった。民生委員にも配布し、個人でコピーをしてくれている方もいた。</p>																
評価の根拠	ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	時間外は留守番電話で母体法人の電話番号をアナウンスし、法人に電話があると、必要時、包括職員へ緊急携帯電話にて24時間連絡が付く体制をとる。																		
	イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>件内()</td> <td>件()</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>件内()</td> <td>件()</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>件内()</td> <td>件()</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>201件内()</td> <td>67件(134件)</td> </tr> </tbody> </table>				本人又は親族	その他	訪問	件内()	件()	面接	件内()	件()	電話	件内()	件()	合計	201件内()	67件(134件)	
		本人又は親族	その他																	
	訪問	件内()	件()																	
	面接	件内()	件()																	
	電話	件内()	件()																	
	合計	201件内()	67件(134件)																	
	ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	<p>・時間外は留守番電話で母体法人の電話番号をアナウンスし、法人に電話があると、必要時、包括職員へ緊急携帯電話にて24時間連絡が付く体制をとる。また、必要に応じて休日出勤を行う。</p> <p>・平成29年度より、地域包括職員が輪番で土曜出勤をする。</p>																		
エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※8:30-17:00に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>件内()</td> <td>件()</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>件内()</td> <td>件()</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>件内()</td> <td>件()</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>115件内()</td> <td>64件(51件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	件内()	件()	面接	件内()	件()	電話	件内()	件()	合計	115件内()	64件(51件)				
	本人又は親族	その他																		
訪問	件内()	件()																		
面接	件内()	件()																		
電話	件内()	件()																		
合計	115件内()	64件(51件)																		
※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>件内()</td> <td>件()</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>件内()</td> <td>件()</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>3件内()</td> <td>3件(0件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3件内()</td> <td>3件(0件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	件内()	件()	面接	件内()	件()	電話	3件内()	3件(0件)	合計	3件内()	3件(0件)				
	本人又は親族	その他																		
訪問	件内()	件()																		
面接	件内()	件()																		
電話	3件内()	3件(0件)																		
合計	3件内()	3件(0件)																		
オ. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる																			
カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】	<p>・薬局や医療機関に独自に作成したチラシを設置してもらう。</p> <p>・地域の老人会やサロン等に出向き、周知活動を行う。</p> <p>・民生委員等地域関係者に包括チラシやパンフレットを渡し、住民に配布してもらう。</p> <p>・地区社会福祉協議会や高齢者支援連絡会の広報誌において、地域包括の紹介を掲載していただく。</p>																			
キ. その他【任意・自由記入】	民生委員や高齢者支援連絡員との連携により、地域包括を知らない利用者に対する相談支援も行き届きやすいネットワークを構築している。																			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。		4	4		苦情受付票を作成し苦情受付台帳、記録票を作成し整備をしている。
評価の根拠	ア. 地域包括支援センターで受け付けた苦情受付件数と、そのうちセンター自体に対する苦情件数(28年度1年間)【件数を記入】	苦情受付件数 20件 (内センター自体の苦情 3件)			
	イ. 「28年度1年間に受けた苦情のうち最も困難な苦情」の解決にかかった時間及び解決のために主に連携した機関【時間及び機関を記入】	解決時間: 8時間 連携機関: 高齢者支援課			
	ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開している/いない	いる			
	エ. ウが「いる」場合、公開している場所・方法【自由記入】	・重要事項説明書に苦情対応窓口に関する情報を記載する。 ・事業所内に掲示をする。			
	オ. 重大な苦情の内容及び対応内容を決定し、関係機関と共有している/いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】	・苦情対応マニュアルを作成し、年1回以上全職員を対象に苦情対応研修を行う。 ・苦情受付票を作成し、苦情受付台帳の管理をしている。			

2. 人員体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。		4	3		
評価の根拠	ア. 3職種(保健師等/社会福祉士/主任介護支援専門員)の欠員期間(日数)【日数を記入】 ※年度末に報告する欠員期間(日数)を記入 ※欠員がなければ0を記入	保健師等 : (365)日 社会福祉士 : (0)日 主任介護支援専門員: (0)日			
	イ. 「専門職総数」のうち「今年度新たに配属された専門職」の比率【比率(新たに配属された専門職/専門職総数)を記入】	0%			
	ウ. 専門職の当該地域包括支援センターでの平均勤続月数【月数を記入】 ※平成29年3月末現在の平均勤続月数を記入	平均 30.75月			
	エ. 職員に対する職場内研修の開催回数【回数を記入】	10 回			
	オ. その他【任意・自由記入】	・職場内研修以外にも、専門性を高めるための外部研修に多数参加する。外部研修に参加後は、伝達研修を行う。 ・職員の定着率が高い。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②専門職間の連携を効果的に行っているか。		4	3		
評価の根拠	ア. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点【すべての専門職の得点を記入】 ※全国平均は24.5点 ※平成29年3月末現在在籍している全ての専門職について記入	①34 ②29 ③29 ④27 ⑤ ⑥ 平均 29.75 点			

3. 総合相談支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①相談内容の把握・分析を行っているか。	4	3		
評価の根拠	ア. 分類別の相談件数 (28年度1年間) a.本人又は親族への支援 【件数を記入】 b.本人又は親族以外の機関に 支援 【件数を記入】	a.本人又は親族への支援 介護に関する相談 1278件 健康・医療に関する相談 577件 経済的相談 175件 介護予防相談 130件 家族調整に関する相談 43件 権利擁護に関する相談 166件 諸制度に関する相談 36件 その他 798件 総計 3203件 b.本人又は親族以外の機関に支援 介護に関する相談 948件 健康・医療に関する相談 434件 経済的相談 204件 介護予防相談 19件 家族調整に関する相談 31件 権利擁護に関する相談 384件 諸制度に関する相談 19件 その他 1268件 総計 3307件		
	イ. 他のセンターと比較した分類別の相談件数の特性と、当該センターにおける相談内容の主な特徴の検討結果【自由記入】 ※直近の介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	相談内容については、介護に関する相談が最も多く、続いて医療に関する相談が多い。本人以外からの相談は、権利擁護に関する相談が多く寄せられているのが特徴的である。他地域と比較した場合、大きな差は見られない。地域資源の面では、いきいきトレーニング実施事業所がなく、通所型元気応援クラブ等への参加調整を行なっている。		
	ウ. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断している／いない	いる		
	エ. 主担当職員が不在の場合でも対応できるように職員間で共有できる記録の管理を行っている／いない	いる		

オ. その他【任意・自由記入】	全ての相談事例について、毎月、3職種間で経過及び支援方針を共有する。前日の相談事例については、翌日の朝礼時に共有する。支援経過が確認しやすいよう、パソコンのネットワーク化や個別ファイルを作成し管理する。	/		
-----------------	---	---	--	--

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。	4	4		
ア. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を定期的に行っている／いない	いる			
イ. 専門的・継続的な関与又は緊急の対応が必要と判断した場合であって、市へ報告した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	独居で認知症の周辺症状による問題行動が著しく地域で問題となっていたケース。自宅の立ち退きや重度の認知症、外科手術が必要な身体状況など多岐にわたる緊急の対応が必要と判断した。市へ報告、連携し、緊急ショートステイの利用による本人保護や入院支援、成年後見制度へのつなぎ支援など専門的・継続的な関与や緊急の対応を行う。重度の認知症により本人の意向確認が難しく、自宅の立ち退きなど法律に関係する問題や医療的な問題が重層的にあり解決が困難であった。			
ウ. 障害者支援機関と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	認知症の本人と聴覚障害、統合失調症のある子との同居世帯。本人の認知症状が悪化する中で子の病状が悪化し受診が途絶え、近隣への迷惑行為などが現れる。基幹相談支援センターや子のかかりつけ病院と連携し子の受診、本人の支援を進める。子は受診に再度つながり改善、本人に対しては介護サービスは追加されたものの状態は悪化し施設入所、成年後見申し立てを進めていくこととなった。双方の支援関係者は地域個別ケア会議も含め定期的に会議や同行訪問を行った。			
エ. 介護家族からの相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	本人と配偶者、子①、子②の同居世帯。本人は数年前より物忘れが進行し、家族に対して被害妄想が出現。対応に困った子①が、医療機関での病気の診断とその後の支援を希望し地域包括に相談。地域包括で家族からの聞き取りや本人と面談し、健康診断を口実に医療機関の協力を得て認知症の精査につなげる。最初は本人の拒否があったが、介護申請及びケアマネとの同行訪問によりサービスにつなげるに至った。			
オ. 介護と仕事の両立支援など、子育て部門と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	本人、子、孫それぞれ精神障害を持ち、長年の関係悪化から問題が発生している3世代同居世帯の支援をするケース。発達障害支援センターと連携し関係者会議の開催をし情報の共有と支援方針、役割分担などを決定する。定期的に会議を開催し、モニタリング等行う。本人と子との距離を保つ必要があると判断され、地域包括は本人を地域活動につなげるなどの支援を行う。本人の子に対する敵意が非常に強い為解決が困難であった。			
カ. その他【任意・自由記入】	問題解決の為に、弁護士や警察官など様々な専門職に相談し、必要に応じて協働して対応した。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③地域における関係機関のネットワークの構築を行っているか。	4	4	朝礼時の報告や回覧、伝達会議等で、職員間の情報交換を密に行なっている。情報のファイリングや一覧化を行い管理している。小金地区の施設情報をまとめた社会資源マップの改定を行なった。	
ア. 地域(圏域内・外)のネットワークの構成員や組織、関係性等の情報をマップやリストで管理している/いない	いる			
イ. 職員が依頼に基づき参加した関係機関・組織における全ての会議・行事等(※)の日程・テーマ 【日程・テーマを記入】 ※①関係機関・地域の町会等による住民等向けイベント(テーマ記入不要)、②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント、③地域密着型サービス事業者の運営推進会議に大別して記載(地域ケア会議や医療関係者とのカンファレンスなどを除く)	<p>①◆小金第一寿会〔認知症予防について〕:6月18日 ◆すみれ会〔介護保険について〕:6月21日 ◆あすなろ会〔松戸市の認知症対策について〕:7月25日 ◆ふれあい会食会:9月8日,10月4日 ◆小金南部民児協定例会:10月8日,2月11日 ◆小金北部民児協定例会:10月12日,3月16日 ◆大谷口南町会長寿会〔松戸市の認知症対策について〕:11月6日 ◆小金清志町会老人会〔松戸市の介護予防について〕:11月19日</p> <p>②7月12日 第1回東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター 認知症疾患医療センター合同連絡協議会 1月7日 第1回千葉県認知症疾患医療センター研修会 1月17日 第2回東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター 認知症疾患医療センター合同連絡協議会 2月2日 千葉西総合病院での在宅医療関連多職種連携会議 2月8日 地域包括在宅介護支援センター職員研修 3月27日 在宅医療・介護連携相談窓口プロジェクト事例検討会</p> <p>③運営推進会議 ◆しいえず幸田:4月19日、6月21日、8月16日、10月18日、2月21日 ◆めいと中金杉:5月18日、7月20日、11月16日、1月18日、3月15日 ◆さざんか:5月21日、7月16日、9月17日、11月19日、3月18日 ◆芙蓉園:5月27日、7月29日、11月25日、1月27日、3月31日 ◆デイサービスわいわい豊夢小金:9月15日 ◆デイサービスここね:9月28日 ◆リハぷらざきたこがね:10月21日 ◆リハビリデイホームいきいき舎北小金:2月14日 ◆デイサービスふおるて:2月15日 ◆健康ぷらす小金城趾:3月31日</p>			
ウ. 個人の有するネットワークを専門職で共有している/いない	いる			
エ. その他【任意・自由記入】	朝礼時の報告や回覧、伝達会議等で、職員間の情報交換を密に行なっている。情報のファイリングや一覧化を行い管理している。小金地区の施設情報をまとめた社会資源マップの改定を行なった。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
④地域の社会資源について把握を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(※)を行う地域(圏域内・外)の社会資源のうち、センターと連携や交流の実績がある資源の数(〇ヶ所)【ヶ所数を記入】 ※配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等	圏域内 35ヶ所 圏域外 19ヶ所			
	イ. アの地域の社会資源を開発するために行っている方策【自由記入】	・地域住民とともに社会資源マップを作成し情報の共有をする。 ・民生委員、町会、老人会関係者に連絡し、情報確認をする。 ・自治会、民生委員などに情報提供を行いサロンの立ち上げなど提言する。			
	ウ. 地域の社会資源やその情報の収集方法【自由記入】	・社会資源マップ作成、ウォークラリー打ち合わせのために地域住民に集まってもらい話し合いを複数回行う。 ・地域の介護事業者と交流会を行い情報交換を行う。 ・町会や老人会の集まりに出向き介護保険制度の説明や認知症サポーター養成講座を行うとともに地域の情報収集を行う。			
	エ. 地域の社会資源に関するマップやリストを作成している／いない	いる			
	オ. 地域の社会資源に関するマップやリストを逐次見直している／いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】	・認知症サポーター養成講座の卒業生を中心に「小金げんき友の会」を立ち上げ、社会資源マップをもとに地域の社会資源をめぐるウォークラリーを開催した。 ・今後はオレンジ協力員を中心に認知症カフェやサロンの運営などを自主的に開催してもらえるように社会資源の開発の働きかけを行う。			

4. 権利擁護業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①成年後見制度や日常生活自立支援事業(社協)の活用を促進しているか。	4	3		
評価の根拠	ア. 成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する必要がある者の把握方法【自由記入】	総合相談や、ケアマネ等からの相談や医療機関から対象者を把握し、アセスメントを行い、必要性を三職種にて検討をするケース会議を行う。 対象者は台帳にて管理し、毎月ケース共有時に確認している。	/	
	イ. 成年後見制度活用につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	・市長申立て5件 ・親族申立て1件 ・本人申立て0件 市長申立て件数が増加傾向にある。また親族申立て費用助成制度の活用も市内で初めて行う。高齢化が進んでおり、独居や高齢者夫婦世帯は増加しているため、今後は専門職だけではなく、近隣住民からの情報を得るように普及啓発を行っていく。		
	ウ. 日常生活自立支援事業につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料等を参照して比較検討	日常生活自立支援事業の相談件数は7件あったが、事業に繋いだケースは1件。 日常生活自立支援も検討したが、認知症の進行のため成年後見制度の利用につなぐことになったケースが多かった。 今後の課題としては、早い段階から日常生活自立支援も視野に入れ支援を行なう。		
	エ. その他【任意・自由記入】	成年後見制度の利用について、リーガルサポートや法テラス、ばあとなあ千葉等に申立てに関する相談を行った。また、申立ての際は、必要に応じ、市役所高齢者支援課、生活支援課と連携した。本人に同行し家庭裁判所に相談に行く支援を行う。		

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。		4	4		
評価の根拠	ア. センター自身が警察や法律家と連携して対応した高齢者虐待事例の件数(28年度1年間)【件数を記入】	12件			
	イ. 職員が、虐待事例に関する緊急時に連携できる介護施設・医療機関等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる			
	ウ. 通報を受け48時間(24時間)以内に安全確認や必要な対応を行った事例の概要と対応内容(1事例)	子が日常的に暴力をふるい、本人の年金を搾取していると民生委員より通報が入る。24時間以内に自宅訪問し本人、子と面談を行う。面談中においても本人に対して暴言があり子も介護負担からの日常的暴力を自認したため、同日に医療機関の受診を支援しそのまま緊急分離を行った。			
	エ. その他【任意・自由記入】	相談受理時は内部共有を速やかに行っている。包括での対応方針をまとめ、市への報告や各関係機関との連携を図ることによって、適切な対応に努めている。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③消費者被害の防止や権利擁護に関する啓発に関する取組を行っているか。		4	3	年に1回、松戸東警察署生活安全課の警察官に講師をお願いし、体操教室において詐欺防止の講座を行なっている。	
評価の根拠	ア. 松戸市消費生活センター(又は松戸市消費生活課)との定期的な情報交換の方策及び頻度【自由記入】	消費者被害に関する相談を受けた際に、消費者センターにつなぐ支援等行なった。			
	イ. 消費者被害防止のための民生委員・介護支援専門員・訪問介護員等への情報提供等の実施方策及び頻度【自由記入】	消費者被害に関する事例が発生した際は、民生委員やケアマネ、ヘルパー等と情報交換し、注意を促している。			
	ウ. センターが開催した権利擁護に関する全ての住民向け講演会の日程・内容・主な参加者層・参加者数【日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	平成28年7月14日馬橋市民センター 弁護士による経済的虐待の講演 65歳以上小金地区住民対象 69名参加 平成28年9月12日小金北市民センターにて松戸東警察署職員による詐欺被害防止の講座。65歳以上の小金地区高齢者18名参加。 平成28年9月27日小金市民センターにて松戸東警察署職員による詐欺被害防止の講座。65歳以上の小金地区高齢者25名参加。			
	エ. その他【任意・自由記入】	年に1回、松戸東警察署生活安全課の警察官に講師をお依頼し、体操教室において詐欺防止の講座を行なっている。			

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域の介護支援専門員に対して、日常的指導・相談を効果的に行っているか。	4	3	平成29年度から、管轄内の居宅介護支援事業所の介護支援専門員との事例検討会の定期開催に向けて、介護支援専門員に向けてアンケートを実施し、その結果介護支援専門員事例検討会の定期開催の希望は、3か月に1回、1時間半の開催希望がわかった。	
ア. 28年度1年間における地域の介護支援専門員からの相談件数【件数を記入】	870件			
イ. 「28年度1年間における地域の介護支援専門員から受けた相談のうち最も困難な相談事例(1事例)」の概要及び対応内容【自由記入】	認知症の独居。アルコール依存症、消費者金融への借金、猫の多頭飼育、無免許運転、ゴミ屋敷、支援者への物取られ妄想、公共料金などの未納、不動産の処分などの問題があった。成年後見制度の申し立て、選任までの金銭管理、病院受診、緊急搬送、退院の対応、親族への連絡相談、認知症初期集中支援チームへのつなぎ、地域個別ケア会議、頻繁な関係者会議の開催などの支援を行う。保佐人が選任され介護サービスが落ち着き在宅生活が継続できている。			
ウ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数【回数を記入】	1回			
エ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の日程・内容・講師【日程・内容・講師を記入】	平成28年11月16日 ・介護予防・日常生活自立支援総合事業 ～小金地域包括支援センターの取り組み～ 講師 主任ケアマネ ・事例検討「医療・介護の連携」 講師 ケアマネ			
オ. その他【任意・自由記入】	平成29年度から、管轄内の居宅介護支援事業所のケアマネとの事例検討会の定期開催に向けて、ケアマネに向けてアンケートを実施した。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②地域の介護支援専門員に対して、支援困難事例等への個別指導・助言を効果的に行っているか。		4	3		
評価の根拠	ア. 同行訪問による個別指導・助言の件数(28年度1年間) 【件数を記入】 ※サービス担当者会議への出席は同行訪問に含めないものとする。	148件			
	イ. アのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び個別指導・助言の内容【自由記入】	子夫婦と孫の三世同居。アルコール依存症で数回治療歴がある。脳梗塞後遺症あり。介護サービス利用をするが、朝から飲酒をするため、サービス利用が中断する。医師からは認知症と診断されているが、車の運転に関するトラブルが繰り返された。幻聴・幻覚の症状により治療の必要性があることから、医療保護入院となった。キーパーソンの子と支援方針の折り合いがつかないケアマネに対して、居宅介護支援事業所の管理者と連携しケアマネ支援を行い、上手く行かなかった理由について振り返った。			
	ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数(28年度1年間)【件数を記入】	13件			
	エ. ウのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び指導・助言の内容【自由記入】	認知症の独居。アルコール依存症、消費者金融への借金、猫の多頭飼育、無免許運転、ゴミ屋敷、支援者への物取られ妄想、公共料金などの未納、不動産の処分などの問題があった。成年後見制度の利用、初期集中支援チームの紹介、病院の紹介、地域ケア会議含む関係者会議の促しなどの指導、助言を行う。			
	オ. その他【任意・自由記入】	課題整理総括票を用いて一緒に課題分析を行なう、担当者会議に参加する、必要な関係機関へのつなぎを行なうなどの支援を通じて、指導・助言を行なった。			

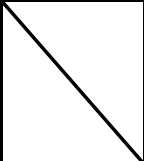
6. 地域ケア会議関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。	4	3	<p>・地域課題において緊急時の身元確認という課題が上がり、検討を行った結果、緊急連絡先を記入、携帯できる松戸市高齢者安心カードの作成につながり、市全体で活用されている。</p>	
ア. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定している／いない	いる			
イ. アが「いる」の場合、その具体的な方策【自由記入】	<p>・地域課題において緊急時の身元確認という課題が上がり、関係する地区連合会町会、地区社協、民生委員、消防、警察、医療機関、地域福祉課、子ども家庭相談課、保健福祉センター、高齢者支援課と課題検討を行った結果、緊急連絡先を記入、携帯できる松戸市高齢者安心カードの作成につながり、市全体で活用されている。</p> <p>・複合的な問題を抱える世帯に対して、幅広い連携の必要性から、地域包括ケア推進会議に参加を求めご出席頂いている。</p>			
ウ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定している／いない	いる			
エ. ウが「いる」の場合に、当該地域個別ケア会議の事例と参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種【職種を記入】	<p>・認知症高齢者の運転免許の取り消しに関する支援について警察官にも参加して頂き協議した。</p> <p>・障害者と高齢者の同居世帯への支援を検討するため関係者に参加して頂いた。</p> <p>【職種】警察官、民生委員、高齢者支援連絡会、基幹相談支援センターCoCo、保健所</p>			
オ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論内容(議事録)を参加者間で共有している／いない	いる			
オ. その他【任意・自由記入】	<p>議題、ケースに応じた関係者に地域個別ケア会議に出席を依頼し、幅広いネットワークの構築と地域課題の抽出、共有ができ、さらに地域関係者、医療機関、消防など様々な機関と抽出された地域課題について地域包括ケア推進会議にて検討した結果、市全体で活用される成果物につなげることができた。</p>			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。		3	3		
評価の根拠	ア. 地域個別ケア会議の個別事例から課題を抽出し、地域包括ケア推進会議での議題にあげている事例(2事例)【自由記入】	同居している子が障害を抱えており、今まで家事をしていた本人は認知症の進行がみられごみ出しなどが上手くできなくなった。近隣の支援だけでは対応が難しい障害関係者、地域関係者、介護関係者、医療機関と会議を重ね、医療受診や成年後見制度へのつなぎ、介護サービス調整など在宅生活を継続できるように支援する。認知症高齢者と障害者の同居世帯への支援という地域課題を地域包括ケア推進会議にあげる。			
		定年退職後、アルコール依存で認知症が進んでいる本人が判断力の低下した状況で車の運転を行なう。介護保険申請支援と介護サービス導入支援し、家族に働きかけをし病院受診につなげ成年後見制度へのつなぎ支援を行う。また関係の悪い子との分離の支援、知人の支援調整も行う。認知症高齢者の車の運転という地域課題を地域包括ケア推進会議にあげる。			
	イ. 地域包括ケア推進会議で抽出された課題をまとめて、市の定める期限・様式に従って、市に報告している／いない	いる			
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、地域包括ケア推進会議で報告している／いない	いる			
	エ. その他【任意・自由記入】	・検討課題に応じた幅広い関係機関の参加により、課題に対して様々な視点から意見交換ができた。 ・個別課題から地域課題、市全体の課題へつながり、検討した対応策が市全体の政策に活かされた。			

7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①医療機関との緊密な連携を行っているか。	4	4		
評価の根拠	ア. 在宅医療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】	精神疾患のため無駄な買物や契約を繰り返し多額の借金を抱えるが、本人に病識はなく鬱時には数か月寝込む。医療機関やサポート医と連携し往診の調整して医療的側面から生活実態の把握をする。子に働きかけを行い法テラスへつなぎ、成年後見制度利用の支援をする。成年後見用診断書作成でも連携をする。		
		本人の認知症がかなり進行してから子より相談あり訪問。介入拒否があり、医療相談員と一緒に子への面接を繰り返し、本人とも十分な顔合わせを行った上で往診につなぎ、介護保険申請支援をする。		
	イ. 外来診療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】	医療機関より独居で認知症が疑われ、定期的な医療処置が必要な本人の外来受診支援と金銭管理を含む生活支援を依頼される。医師、看護師と連携して外来受診支援をし、重度の認知症が分かり早急に介護保険申請、施設入所、成年後見制度申し立ての支援を行う。施設入所後も医療機関と受診や情報共有で連携継続する。		
		事前に医療機関に相談の上、糖尿病の管理が難しい本人の同行受診を重ね、主治医、本人、地域包括で検討し処方の見直し、適切な服薬管理、定期的な血圧測定と運動の習慣化を支援する。また大量の残薬を医療機関、薬局と連携し再利用できるよう支援する。		
	ウ. 入院医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】	アルコール依存症で幻視、幻聴が重症化した本人に対して医療機関と何度も打ち合わせを重ねて入院を支援する。診療情報提供書の作成受け渡しや保健所への相談、運転免許の取り消しに関する診断書の作成に医療機関の協力を得た。		
		退院後介護保険サービスの利用を数か月で中止、受診もせず状態悪化したため再入院になったケース。医療機関と連携し入院中に相談員、作業療法士、看護師また子や地域関係者も含め数回カンファレンスを開催し、在宅生活に向けた問題点を確認し合い、退院後の健康管理や金銭管理など適切な支援につなげる。		

<p>エ. その他 【任意・自由記入】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域唯一の病院が母体であり地域医療連携に強みを持つ。 ・積極的に医療・介護連携会議等に出席し顔の見える関係作りをし、個別ケースでの迅速な支援をする。 ・地域ケア会議では積極的に医療関係者に出席を求め問題解決に向けた連携に努める。 			
-----------------------------	---	---	--	--

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。	4	4		地域サポート医への相談を通して、積極的に在宅での医療連携を行なうことが出来た。
評価の根拠	ア. 地域サポート医(在宅医療・介護相談窓口)へ相談を行った件数(28年度1年間)【件数を記入】※相談支援件数・アウトリーチ件数・合計を記入	相談支援件数 2 件 アウトリーチ件数 2 件 合計 4 件		
	イ. 地域サポート医との連携により、地域における医療的な課題に対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	配偶者への虐待で分離後の養護者支援で本人の支援を行う。血圧が200を超えるも医療拒否をしていた。サポート医に相談しアウトリーチを依頼して定期受診につなげ、さらに介護保険申請とサービス導入をして健康管理をする。サポート医と連携しながら地域で医療拒否のある方への支援という課題に対応する。 独居の認知症高齢者であり他者との交流がないが周辺症状が出現していたため近隣で問題となっていた本人の支援を、サポート医に相談しアウトリーチを依頼する。医療的な面からアセスメントをしてもらい援助方針の確認を連携して行う。地域の認知症高齢者の独居の方への支援という課題にサポート医と連携して対応する。		
	ウ. 医療関係者とのネットワークを構築するためにしている具体的な方策【自由記入】	・小金地域事業者交流会に松戸市内の訪問看護ステーション及び管轄内の医療相談員を案内する。 ・松戸市介護支援専門員協議会が開催する医師・医療相談員との研修や在宅医療関連多職種連携会議など医療関係者が参加する研修会等に積極的に参加する。 ・地域ケア会議へ医療関係者に参加を依頼する。 ・在宅医療・介護連携相談窓口相談し、地域サポート医と連携する。		

<p>エ. 医療関係者と合同で参加した全てのカンファレンス・研修の日程・テーマ【日程・テーマを記入】</p>	<p><研修会等> 10/17 難病患者の在宅医療支援研修会 10/19 把握・ケアマネジメント実施者に対するMCIプロジェクト・DASC研修会 1/7 千葉県認知症疾患医療センター研修会 1/17 東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター認知症疾患医療センター合同連絡協議会 2/2 在宅医療関連多職種連携会議 2/23 専門職向け認知症関連研修会 3/9 千葉県認知症サポート医フォローアップ研修会 3/27 在宅医療・介護連携相談窓口プロジェクト <退院時カンファ等開催回数:6件> 5/26・12/13・12/26・3/1・3/8・3/22</p>		
<p>オ. その他 【任意・自由記入】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母体が地域唯一の病院であり地域医療連携に強みを持つ。 ・個別ケースを通じて医療機関、サポート医と連携を図る。 ・地域包括が主催する事業者交流会に医療関係者の出席を依頼しネットワークの構築を積極的に図る。 ・医療関係者の研修会や会議に積極的に参加し顔の見える関係作りをする。 		

8. 認知症高齢者支援

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。	4	4		
評価の根拠	ア. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例の件数(28年度1年間)【件数を記入】	2 件		
	イ. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例(1事例)の概要・センターの対応内容・チームとの連携内容【自由記入】	認知症の独居。アルコール依存症、消費者金融への借金、猫の多頭飼育、無免許運転、ゴミ屋敷、支援者への物取られ妄想、公共料金などの未納、不動産の処分などの問題があった。地域包括は成年後見制度の申し立て、選任までの金銭管理、病院受診、緊急搬送、退院支援、親族への連絡相談、認知症初期集中支援チームへのつなぎ、地域ケア会議、頻繁な関係者会議の開催などの支援を行う。チーム員とは同行訪問やケース会議を重ね生活環境の整備や病状管理、受診調整、救急搬送の際の助言などで密に連携を図る。		
	ウ. DASCを活用した認知症についてのアセスメントを実施し、継続支援につながった件数(28年度1年間)【件数を記入】	7 件		
	エ. DASCを活用してアセスメントを行った事例(1事例)におけるケアマネジメントの内容と実際に行われた医療機関受診・サービス利用・セルフケアの内容【自由記入】	子は本人の物忘れに対してできない事を指摘する事が多かったが本人の生活には支障がない状態であった。本人が難聴の為耳鼻科受診を促し子は脳外科受診を勧めた結果、認知症ではないと診断された。本人は軽度の物忘れを感じており、客観的にも軽度認知障害と思われる為いきいきトレーニングに参加を促した。DASCを実施し状態を確認。事業に参加する事で楽しみを見つける事が出来、卒業後も脳トレに励み地域の集いの場に参加している。		
	オ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題として認知症対策を大きな柱とし、認知症疾患医療センターをはじめとする医療機関や地域のケアマネ、事業所、民生委員などの地域関係者と連携し、認知症の早期把握、早期対応に努める。 ・認知症対策として法テラスなど法律関係者とも積極的に連携し成年後見制度の活用を推進をする。 ・認知症を予防できるまちまっどプロジェクトに7件提出する。 		

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。	4	4	オレンジ協力員の実践活動として、認知症高齢者声かけ訓練への協力を行った。徘徊している認知症高齢者へ驚かせず安心してもらえる声かけの練習を地域住民と行った。	
ア. オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	11件			
イ. アのうち、最も難易度の高いと考えられる実践活動(1事例)の内容【自由記入】	認知症高齢者声かけ訓練の開催協力。他地域での開催を参考にしながら、徘徊している認知症高齢者を驚かせず安心してもらえる声かけの練習をオレンジ協力員や認知症コーディネーター、住民と協働して行う。			
ウ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の日程、主な参加者層及び参加者数【日程・主な参加者層・参加者数を記入】	6月15日 老人会 長友会 21人 7月6日 デイサービスここね 8人 7月20日 東平賀城町会 ひまわり会(老人会) 36人 8月23日 介護老人保健施設まつど徳洲苑 54人 30日 小金地区高齢者支援連絡会 29人 9月5日 介護老人保健施設まつど徳洲苑 22人 8日 アルフレッサ株式会社松戸事業所 42人 9日 セントケア新松戸 9人 11月7日 みずほ銀行 北小金支店 10人 1月20日 小金地域住民 33人 2月5日 大谷口北ゆうゆう会 28人 3月1日 小金保健福祉センター 29人			
エ. 認知症ケアパスの普及啓発のために行っている具体的方策【自由記入】	・民生委員や地域ボランティアの集まる会で、松戸市の認知症対策の一つとして紹介する。 ・介護サービス事業所の専門職に向けて行った認知症サポーター養成講座で紹介する。 ・総合相談時に認知症介護の参考として渡している。			

評価の根拠

オ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括では3名のキャラバンメイトが在籍し、認知症サポーター養成講座を年に12回開催し、延べ321人の認知症サポーターを養成する。またキャラバンメイトフォローアップ研修に参加し養成講座の内容の充実を図る。 ・認知症サポーター養成講座の修了者を対象に小金げんき友の会を発足し地域ネットワークの構築をする。 	/	
-----------------	---	---	--

9. 介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。	4	3		
評価の根拠	ア. センターが行うケアマネジメントを通じて、住民主体のサービス、地域の予防活動等につないだ事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	<p>民生委員からの相談。難聴だが周囲の理解がなく本人が自信を失っていた。耳鼻科受診と同時にいきいきトレーニングにつないだ。認知機能向上教室で体操や脳トレが行われ、脳トレに興味を示し卒業後も自ら積極的に脳トレを継続するように支援する。さらにその後は地域の体操教室やサロンにつなぎ本人は積極的な参加をし、意欲や身体機能の向上をする。</p> <p>地域の体操教室に参加していたが本人が体調や物忘れも気になっていた為、短期集中予防サービスにつなぐ。そこで認知症予防の運動を学び地域の体操教室で披露してもらう事を目標に支援する。本人は体操教室で今まで学んだ事を披露する事で生活に張りが出てようになった。</p>		
	イ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	<p>原因不明の手足の震えやうつ症状があり、服薬の自己判断による変更、中断を繰り返して閉じこもりがちな生活になっていた。短期集中予防サービスにつなぎ、外に出る意欲が湧き、気分転換が図れて徐々に状態が安定していった。終了後も外に出る意欲を維持しており心身機能の向上につながる。</p> <p>自転車で転倒後、自宅にこもりがちとなり廃用症候群のおそれがあった。短期集中予防サービスの利用を支援すると本人の気力が上がり、他者との会話にも積極的になる。さらに自宅でも運動の習慣ができるようセルフケアを支援し、体力筋力の維持向上につながり歩行も安定する。その後体操教室や元気応援くらぶ、NPO主催の行事などにつなぎ支援をして本人は積極的に参加され、心身機能が向上する。</p>		
	ウ. 一般的なケースにおけるモニタリングの実施頻度と実施内容【実施頻度と実施内容を記入】	月に1回の訪問にて本人、家族と面接するとともにサービス事業者からの報告を受ける。必要に応じて医療機関や民生委員など地域関係者からなども聞き取りを行う。		
	エ. その他【任意・自由記入】	主任ケアマネが2名在籍しており、主任ケアマネを中心に意見交換をしながら自立支援に向けたケアマネジメントを実施している。		

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。		4	3		
評価の根拠	ア. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するためにしている具体的方法【自由記入】	本人、家族に希望をうかがう。また委託先を台帳で管理し、同じ事業所に偏ることのない様、公平に委託している。			
	イ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる			
	ウ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる			
	エ. 委託先の安定的な確保のために講じている具体的な方策【自由記入】	・居宅介護支援事業所のケアマネの入れ替わりなど、状況把握を行なっている。ケアマネへの同行訪問など、必要なサポートを行なっている。 ・委託実績がない事業所にも委託するように心がける。			
	オ. その他【任意・自由記入】	・主任ケアマネの更新研修及び、法定外の研修に積極的に参加し、ケアマネ支援の対応力強化を図っている。 ・約70%の委託率。 ・サービス利用者の意向を尊重しながら公平な委託先の選定に努める。			

10. 松戸市指定事業

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。	4	3	・認知症サポーター養成講座の卒業生やオレンジ協力員を中心に「小金げんき友の会」を立ち上げた。	
評価の根拠	ア. センターが開催する介護予防教室(体操教室等)の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	○合計開催回数 26回 参加総数 555名 ○最多参加総数 32名 平成29年2月28日小金市民センターにて、65歳以上の小金地区の高齢者に、転倒予防運動・認知症予防についての講義。		
	イ. センターが開催する認知症予防教室の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	○合計開催回数 3回 参加総数 57名 ○最多参加総数 21名 平成28年10月12日小金市民センターにて、65歳以上の高齢者に、認知症の理解・疾患について・グループワーク		
	ウ. ボランティアの育成の具体的な実施方策【自由記入】	・認知症サポーター養成講座の卒業生やオレンジ協力員を中心に小金げんき友の会を立ち上げ、社会資源マップをもとに地域資源をめぐるウォークラリーを開催し準備や当日の参加者への対応など行っている。また介護予防教室で利用する巨大パズルの作成、声掛け訓練、認知症サポーター養成講座での寸劇などボランティアで行って頂く。今後組織の自主的な運営やサロンの開催を働きかけていくためリーダーの養成などに取り組んでいく。		
	エ. 申請代行業務(サービス利用の申請代行、住宅改修の助言・理由書作成等)の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	介護保険認定申請代行: 63件 住宅改修の助言・理由書作成: 3件 その他:(公的サービス利用申請): 14件 その他:(): 0件		
	オ. 各種保健福祉サービス・介護サービスの普及啓発の具体的な実施方策【自由記入】	・老人会・自治会・町会等に出向き、介護保険制度の説明等を行った。 ・民生委員児童委員連絡協議会定例会や高齢者支援連絡会定例会などにて福祉サービス等の普及啓発を行う。 ・介護予防体操教室にて福祉サービス等の普及啓発を行う。		